

鉄道友の会 2017 年度定時総会 事前質問等・同回答要旨

**1. 2016 年度運営・収支決算報告事項に関する質問**

**【第 1 号議案についての質問】**

—会務概況関係—

**【1-1】**

会員数の減少対策について。

友の会の会員数の減少傾向に歯止めがかかっておらず、平成 28 年度末で 3000 名を割込む寸前のところまでできています。このままでは平成 29 年度末には 3000 名を割込む事は確実な情勢で、具体的な会員減対策をお聞かせ頂きたいと考えます。

例えば中高生の会費を半額以下とする。永年会員制度を作り 20 年以上の継続会員は会費を割り引く。シルバー会員制度を作り会費を割り引く。(80 歳以上)

(坪倉 則孝 代議員)

(回答)

会費については、今後の経理状況や会の方向性ともからめて考える必要がありますが、代議員の皆さんの多くの要望があるようであれば検討すべきだと思います。ただし、会則に縛られる事項もあり総会決議を経る必要もあります。

会員減少対策ですが、質問 11・12 で回答したように、会員各位の声掛けにより新入会員が増加することを願っています。そのための会の魅力づくりの一環として、鉄道友の会ウェブサイトの充実を図っているところです。

**【1-2】**

会員数の漸減について、昨年度総会席上で「会員減少対策の一つとして、10月に、会費未納会員に納入催促状を発送しているが、それに合せ、退会会員については退会理由アンケートを、実験的に実施してみたい」との回答があったが、実際に行われたのか、回答結果若しくは回答結果から見えてきたものについてご教示願いたい。

(原 英喜 代議員)

(回答)

昨年会費未納会員に対し「払込みのお願い」247 通送付した際アンケートを同封しそのうち 34 名から回答を得ました。内訳は継続 9 名、非継続 25 名でした。会員歴は 6 年以上がほぼ半数でした。退会理由で圧倒的に多かったものは高齢、病気などによるもので、年会費 6400 円が割高との意見がほぼ半数、「RAILFAN」のネット配信希望など機関誌に対する意見も見受けられました。

### 【1-3】

昨年度の事前質問にて、「会員減について、魅力的な会づくりを踏まえ、会全体で前向きな議論が必要…とあり、具体的に支部・研究会・会員などと、どの様な体制により議論を進めようと御考えか」と伺い、会のあるべき姿について構想をまとめたうえで、会員と議論を進めて行く方向です。具体的には支部・研究会の実務担当者が集まれる場を設けられないか検討中です」と回答を頂きましたが、どこまで議論が進んでいるのか伺いたい。

(原 英喜 代議員)

(回答)

検討継続中ですが、まだ実現に至っていません。実現に向けての対応を継続したいと考えています。

### 【1-4】

総会は意見交換会も含めて時間に追われることなく行って頂きたいものです。意見交換会は講演会の時間が迫っていることを理由に支部・研究会のPRに終わってしまい、友の会の運営や行事に対する意見を交換する場になっていません。

講演会を本部総会から切り離し、別の機会に設けることにより、本部役員・代議員以外の多くの会員に参加頂けるメリットも考えられますが如何でしょうか。

(原 英喜 代議員)

(回答)

講演会の総会からの切り離しのご提案は、今後の検討課題として承りました。

### 【1-5】

代議員からの提案、意見など、総会およびその後の意見交換会だけでは汲み上げきれているとは思えない。どのような形で、総会以外での代議員からの意見、提案の受入れを考慮しているのかご提示いただきたい。(会則第4章第22条2項をふまえての質問でもある。)

(烧田 健 代議員)

(回答)

代議員からの提案、意見について、総会後の意見交換のみでは十分に汲み上げられないのは事実だと思っています。現状実施している方策は、各地で開催される諸行事に理事等役員が積極的に参加し、その際に、関係する代議員や支部の担当者等と意見交換・情報交換を行っているということです。

過去、総会においては、代議員の皆さんに「意見や提案があれば、総会時以外でも、是非積極的に出していただきたい」旨の、お願いをしていますが、実績としてはあまり多くないのが実情です。

## —総務関係—

### 【1-6】

会費を値下げできないでしょうか？ 値下げの努力はされておりますでしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

現状の経理状況や社会情勢（宅急便や郵便便料金等の値上げ）を考えると、会活動が会費に全面的に依存している当会では現状は非常に困難と考えています。現在の収支状況においては、会費外収入の増加策や支出削減の検討が必要な状況であると考えます。

### 【1-7】

かつて、東京の「交通博物館」、大阪の「交通科学館」では、鉄道友の会会員向けに入館料の割引制度があったが、JR 発足後に開設された本州3社の鉄道博物館では「リニア・鉄道館」以外会員に対する割引の適用がない。施設が充実した分、入館料も高くなっており、会員サービスの観点からも割引の働きかけを強めてもらいたい。

(斉藤 凌 代議員)

(回答)

現在、会員サービスについて、再確認する作業とともに、新たな会員サービスの構築に向けて、作業をすすめているところです。

### 【1-8】

会員証は、以前、ブルーリボン賞を受賞した車両の写真が付いていたと思われるが、近年は、写真が付いていない。

写真が付いていたほうが、見栄えも良くなると思うが、いかがか？

(日下 博文 代議員)

(回答)

現在の会員証へは、支部費一括納入制度を採用した時点（2007年度）から切り換えました。その節、経費削減の視点のもとに、会員証の基本形態に沿ったデザインにしています。

### 【1-9】

会費の支払い方法は、現在ゆうちょ銀行のみとなっているが、銀行やコンビニ等窓口を多様化することはできるか？

(日下 博文 代議員)

(回答)

銀行やコンビニ等窓口の多様化に対応するには、収納機関と契約することとなりますが、ゆうちょ銀行以上の手数料がかかることや、払込可能な金融機関の選定等の問題が

あり現時点では困難と考えます。

現在、三菱東京 UFJ 銀行市ヶ谷支店口座で、会費のみの納入に限って受付けています。

### 【1-10】

会員の年齢別構成（5歳階級別で十分）を集計のうえ開示してください。数年前までは資料として添付されていたものです。会の概況を把握するうえで、会員増を図るのであれば最低限必要な情報です。

（坂戸 宏太 代議員）

（回答）

会員年齢構成の推移につきましては、例年10歳刻みの会員数を公表しています。最終ページに添付しますので、ご参考にしてください。

### 【1-11】

事前質問に対する回答集だが、それぞれ回答者の記名をお願いしたい。

（焼田 健 代議員）

（回答）

回答は、役員の担務に合せ回答原案を作成した後、全理事のチェックを受け、最終的には専務理事が最終確認のうえ、代議員各位に報告しています。回答者は「鉄道友の会 理事会」ということになります。

## —事業・顕彰関係—

### 【1-12】

鉄道文化財推薦委員会の取組は、昨年「233号機関車」が国の重要文化財に指定され、今年「東京地下鉄道1001号電車」等も指定される運びで、高く評価されるが、今後その予備軍となる都道府県レベルの指定文化財車両、さらに関係建物や構造物の指定文化財は、全国に多数存在する。これを機会に、これまで登録された鉄道関係の文化財をデータベース化し、会報やウェブサイトに掲載し会員に周知してはどうか。

（齊藤 凌 代議員）

（回答）

鉄道文化財の推薦は、すでに鉄道友の会によって作成した「保存・廃車体一覧」を最大限に活用しています。この「一覧」は、1986（昭和61）年の公表以来、会員から寄せられた情報などに基づいて最新のデータに更新され続け、最近では第5集が「RAILFAN」2017年4月臨時増刊号として発行されました。この「一覧」には、単なる所在・確認情報だけではなく、保存状態や簡単な略歴などの評価に必要な最低限の情報が網羅されています。ただ、これまで国または自治体の文化財（さらに加えるならば鉄道記念物）となった車両数が少なかったこともあって、文化財に指定・登録された車両

を「一覧」の中で特に区分していませんでした。今後は、この中から文化財に指定されている車両について、その価値や意義をより詳しく紹介することや、簡単な検索ができるよう、PR方法を工夫したいと思います。

### 【1-13】

本部と支部の共催行事で抽選となった場合、最初に別個に参加枠が設けられているとそれぞれの応募先の応募人数によって当選率が異なることになる。これは同じ会費を払っている会員の間で平等性を欠くことであり不満の種ともなっている。抽選が必要となった場合、双方とも同じ当選率となるように人数枠を廃止するようルール化して頂きたいと考えているが本部の見解をお伺いしたい。

(篠原 丞 代議員)

(回答)

基本的には当選枠を融通しています。しかし、事業者の意向がある場合もあります。その都度調整し、公平性を期したいと考えております。

### 【1-14】

本部行事について

本部行事は以前に比べ件数は大幅に増加していますが、参加定員が少ない行事が多数見受けられます。阪神支部共催の行事は大多数が50名以上ですが、全国の会員が積極的に参加を希望しても、定員以上の申し込みで抽選により落選者が多数出て、この事が友の会の魅力を喪失させ、退会に繋がっていないか危惧しています。申し込み者と落選者の人数により会員減少に繋がっていないか見解を御聞かせ頂きたいと考えます。

(坪倉 則孝 代議員)

(回答)

以前にも回答しましたが、事業者の意向によるところが大きいです。応募者が定員を超えた場合は、増員もお願いしております。逆に大人数を受け入れられないので、開催中止となったこともございます。

### 【1-15】

JRCフェスティバル

九州地区の福岡で開催されましたが、地元の研究会との調整は出来ないのでしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

フェスティバルは各方面のご協力を得て、成功裏に終了しました。特に地元研究会には懇親会の手配など、大変協力していただきました。

しかし、募集方法の変更要望をいただき、その(地元研究会からの)回答に時間を要し、会員への告知が遅れたこともございました。不具合を最小限にするため、連絡を密

にしていきたいと思います。

### 【1-16】

昨年「小湊鉄道 DB4+カ 101 ほか」がノミネートされなかったが、今年「えちごトキめき鉄道 ET122 系 1000 番台」がローレル賞選定車両となっている。両者の扱いの相違点を説明していただきたい。  
(北野 隆雄 代議員)

(回答)

両者の審査上での扱いの相違点はありません。

規程第2条(鉄道車両の定義)及び第5条(B賞L賞該当車両)に基づき、鉄道車両であって前年に日本国内で営業運転を正式に開始した車両であるかどうかの確認を行い、候補該当車両を絞り込みます。その一車種づつに委員が内規第2条の基準(①利用のし易さ、②利用者への親切、③快適性、④デザインと機能の整合、⑤乗ってみたいという魅力、⑥環境対応、⑦新技術の有効活用、⑧新材料の有効活用、⑨輸送効率・輸送コスト、⑩安全性・信頼性の10項目)にしたがって評価・採点した結果を集計し、候補車両に該当するかどうかを審議します。

2016年の「小湊鉄道 DB4+カ 101 ほか」はこの段階で候補車両とはならず、2017年の「えちごトキめき鉄道 ET122 系 1000 番台」は候補車両に該当すると判断されたこととなります。

### 【1-17】

昨年も疑問を投げかけましたが、全ての新型車両からノミネートされた過程を分かりやすく出来ないでしょうか？  
(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

候補該当車両(2017年は41車種)からノミネート(候補)車両(同13車種)を選定した経過及びその理由は「RAILFAN」に「候補車両選定経緯」として解説をしています。候補車両の選定の手順、選定結果についての解説は、現行の記載内容程度でご理解いただけるものと思料いたしております。

### 【1-18】

ことしのローレル賞について、JR貨物 EH800 形が選に漏れた理由が、RF誌によれば「複電圧以外に新規性に乏しい」ためとされている。同車はブルーリボン賞の得票が僅か12票差の次点でもあり、落選理由としては、説得力欠けると感じる。選考委員会での深い議論の上の結果に異議を唱えるものではないが、もう少し、詳しい説明があつてよいのではないかと。  
(斉藤 凌 代議員)

(回答)

ブルーリボン賞・ローレル賞の選定、非選定の理由は当然明確ですが、会員以外の眼に触れることをも考慮して、「RAILFAN」の「選考経緯」には、選考しなかった理由ではなく選考した理由を書く方が相応しいとの認識を持っています。一方特に深い議論を行った車種では、会員各位に選考委員会の判断を示しておく必要があるとも考えています。そのために選考しなかった理由をあえて載せましたが、両者のバランスを採って記載の程度の表現にしていることをご理解いただけたら幸いです。

### 【1-19】

最近の BR 賞、L 賞に関して、首都圏以外の車両の受賞が増えている。選考委員会が地方のほうにも目を向けてくれているという表われであり良い傾向なのではないか。

(日下 博文 代議員)

(回答)

投票した会員の皆さんが、首都圏以外の地域鉄道の車両にも注目・評価された結果でもあります。

### 【1-20】

ここ数年、特急車等ではなく、通勤車両（ロングシート車等）がブルーリボン賞を受賞するケースが増えているが、その理由をお聞かせ願いたい。（日下 博文 代議員）

(回答)

候補車両に特急車両が少なく、優秀な通勤車両が多く登場しているのも一つに理由だと考えています。

### 【1-21】

鹿島臨海鉄道の新車 8000 形がノミネートから漏れた理由を、差支えなければお知らせください。（平野 正範 代議員）

(回答)

候補該当車両 41 車種から候補車両を選定するなかで、内規第 2 条の基準の 10 項目について評価・採点した結果が基準に達しなかったことによります。特徴的な部分が少なかったのも一因だとされています。



## —組織関係—

### 【1-22】

「会員数 3000 名の維持」は「会員数 3000 名からの拡大」の間違いですか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

会員数 3000 名から拡大するのは目標にありますが、まずは 2017 年度で 3000 名を下回ることはないようにしなければならないとの意味で維持との表現になっています。

### 【1-23】

入会されなかった 49 名は何でしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

2016 年度ウェブサイトからの入会申込は、152 名でした。そのうち、入会していただいた会員が 103 名。成約率は、68%となります。この 3 年の状態を見ても、66~68%です。何とか、この成約率を上げるため、入会申込時に送付する資料（鉄道友の会のご案内、「RAILFAN」の旧号）について、再検討をしているところです。

## —編集関係—

### 【1-24】

機関誌「RAIL FAN」について

(1) 会報誌「RAIL FAN」以下会報誌ですが、写真掲載および掲載記事について原稿料が発生していると聞いている。原稿料の規定および金額について根拠規定をお示しいただきたい。また、どのような基準で筆者が選ばれているのかご教示いただきたい。

(濱道 輝章 代議員)

(回答)

「RAILFAN」の原稿料は、1970 年代後半から支払いを実施しており、投稿のインセンティブにもなるため現在まで継続しています。これまで謝金規程類の中に原稿料規程は制定されていません。現在の金額の根拠は、前任者より引継いだ基準に改定を加えたもので、原稿料は 400 字当たり 400 円（内容や文字入力の有無により増減あり）、図画・写真料は 1 点あたり 300~500 円（例外あり）で、2016 年の 1 ページ当たり原稿料（図画・写真料含む）は約 1,600 円（源泉徴収税等含む）です。なお、1 部当たりに含まれる原稿料（同）の金額は約 25 円です。筆者選定は、投稿原稿を優先し、依頼分は各分野で実績のある方をお願いしています。



(2) 会報誌について、臨時特集号を発行しているが、年間計画について開示がないのは残念です。年間どのような特集を組み、その計画により原稿作成者を会員から公募する流れが自然だと思いますが、いかがでしょうか  
また、通常号においても、どのような特集で進めていくか掲載が必要であると考えます。そして会員から意見を募り決めていくのが自然ではないでしょうか。

(回答)

臨時増刊号や通常号の特集など、網羅性が求められる内容や貴重な写真の発掘等に効果が見込めるテーマについては、可能な限り事前予告や公募を実施するのが望ましいと考えています。年間計画を決めた上での著者の公募については、臨時増刊号や通常号の特集クラスになると応募がない時のリスクが極めて大きく、現実的な施策としては慎重にならざるを得ません。通常号の特集のテーマについては、様々な意見が寄せられています。魅力ある誌面づくりのための建設的な意見は歓迎します。

(3) 近頃は、会員からの投稿記事を呼びかける文言すらないのは非常に残念です。会員のための会報誌であることから、記事募集の投稿文言を復活させていただきたい。

(回答)

投稿案内は、JRC だよりの「本部事務局のご案内」欄に掲載しています。投稿は会員であれば誰でも可能です。呼び掛けなくても自主的に投稿することが、この種の団体の本来の姿です。写真1枚から本格的な研究記事まで様々な投稿がありますので、現在の案内でも機能していると思われませんが、より広範な投稿を期待してご意見については検討してみたいと思います。

(4) 会報誌の編集について、ご苦勞もあるとは思いますが、一人ですべてを行っているとは考えられません。協力者の選定について、どのような基準で選定させているのかお伺いします。

また、当然に費用が発生しているとは思いますが、金額や契約内容について契約行為に当たり、書面にてやりとりがあると思料されますので、契約書等の開示をお願いしたい。

(回答)

「RAILFAN」の編集作業は、1979年から協力者2名体制を開始しています。1996年から版下作成（紙ベース）を編集プロダクションへ委託、2002年から完全デジタル入稿へ移行しています。2002年に編集プロダクションの方が体調を崩して入院（その後、逝去）、この時の作業代行2名が現在まで協力者として「RAILFAN」の制作に係わっています。2名ともDTP作業のエキスパートで、1名は主にフォントや組版、1名は主にペ

ーレイアウトやデザインに強く、経験・スキルは十分です。契約については、請負（諾成契約）のため労働契約書はありません。現在の作業金額の根拠は、編集プロダクション委託時の金額を基準にデジタル化に伴う技術料を加味したもので、編集費（DTP作業費）は1名1ページ当たり3313円（源泉徴収税等含む）です。なお、2016年の1部当たりに含まれる編集費は約150円です。

**【1-25】**

店頭販売の実績の2016年度の販売部数は何部でしょうか？（松嶋 克廣 代議員）

（回答）

1846部です。

**【1-26】**

鉄道友の会では、現在、鉄道趣味誌5誌に「鉄道友の会だより」を掲載しているとの事であるが、これに「鉄道ダイヤ情報」を加えることはできないか？

（日下 博文 代議員）

（回答）

以前に掲載の申し入れを行いました。先方の編集上の都合もあり実現できませんでした。「鉄道友の会だより」の掲載は、会の広報や宣伝また入会促進へ一定の効果があると認められますので、同誌への掲載が実現できるように努力します。

**【1-27】**

RAILFANについて、紙をもう少し薄くできないか？量的に貯まってくると、かさばって重くなり、保有に困る。

（日下 博文 代議員）

（回答）

「RAILFAN」の用紙については、印刷効果・装丁・コスト等を勘案して選定を行っています。現在より薄い用紙を用いると印刷効果が低減します。良質の印刷物を後世に残すことも鉄道友の会の重要な役割ですので、現在の仕様にご理解をいただければ幸いです。

**【1-28】**

RAILFANについて、掲載される内容について、偏りがあるのではないかと。広く浅くで良いのでもう少し掲載するテーマを広げてほしい。（日下 博文 代議員）

（回答）

「RAILFAN」は、会員の自主的投稿を基本としていますが、投稿だけでは内容に偏りが発

生するため、広く浅くを趣旨とした「モハユニ・鉄道記録帳」で不足情報等を補足して毎号掲載しています。魅力があって望ましいと思う原稿を投稿してください。なお、インターネットの普及により広く浅くを趣旨とした情報は紙媒体には不要という意見もあり、媒体の役割に一層留意する必要があると考えています。

### 【1-29】

機関誌「RAILFAN」は、会員はもとより趣味界や関連業界からも評価が得られるよう、更なる内容の充実を期待します。須田会長が鉄道ジャーナル誌「私の鉄道人生」で、「RAILFAN」について「ここに収録された研究の数々、また時々刻々の鉄道情報などは貴重な文献、資料として評価がいただけるまでに成長した。」と記されています。今後も健全な組織として継続するためにも、評価を低下させないような運営をお願いします。

(平石 大貴 代議員)

(回答)

ご意見ありがとうございます。鉄道趣味の多様化・細分化は顕著で、紙媒体だけで様々な要望に応えるのには限界がありますが、会の機関誌として会員をはじめ各方面からも評価をいただけるよう内容の充実を図りたいと思います。

### 【1-30】

JRC だよりについて、写真が掲載されていない記事が散見されます。本来であれば、JRC だよりが支部活動の報告であると考えます。写真掲載の基準についてお伺いしたい。

(濱道 輝章 代議員)

(回答)

「JRC だより」欄に掲載している報告記事は、ウェブサイトに掲載された活動等を紙媒体に記録することを目的としています。そのために、活動成果が即座に把握できるような情報の定型化と簡潔化を図っています。この過程で写真掲載の有無や選別が行われますが、主に記録性を基準に判断しています。なお、ウェブサイトへの報告内容は、写真の有無を含めて各研究会・支部の担当者に一任しています。写真を投稿の必須とするのは、報告のハードルを上げてしまい、報告数の減少につながりかねないので現状では考えていません。

## —情報関係—

### 【1-31】

『RAIL FAN』誌のデジタル（PDF）化の配信を検討出来ないでしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答)

技術的には実施可能です。しかし、「RAILFAN」の全員送付を継続するのか否か、電子媒体（PDF）への二次使用許諾をどうするか（許諾が得られない場合もあり）、二次使用料をどうするか、PDFがコピーされて流通されないような対策をどうするか、といった解決の難しい問題に結論を出さねばなりません。また、現状の会員層から考えると、紙媒体への期待度が電子媒体への期待度を圧倒的に上回っているように感じられます。

### 【1-32】

懸案であったウェブサイトの改良が進められ、大変見やすくなりました。また、B賞・L賞のリリース日時を事前に案内するなど、注目を集める戦略的な手法も採られ、会としての積極性が垣間見えました。

(坂戸 宏太 代議員)

(回答)

鉄道友の会ウェブサイトを積極的に閲覧いただきありがとうございます。B賞・L賞発表日の事前告知は事業担当の発案で昨年からは実施していますが、予告告知日の一般サイト閲覧数が600強と、前後よりも多くなるなど有意な効果が見られました。一般公開サイトについては、B賞・L賞発表の延べ閲覧数が約4000～5000、通常でも200前後とそれなりに関心度が高いようですので、広報宣伝媒体として活用できればと考えています。

### 【1-33】

会務情報システムの活用で予告・お知らせ一覧で予定日を過ぎると、編集で日付を修正する日に変更して表示状態を非表示にしなければならず、簡単に削除できないか。例会予定などで任意項目を一部だけ入力しても公開されない。終了時刻を入力していなければ開始時刻も公開されない。

例会予定で予定日時を過ぎた場合自動で削除できないのか。または簡単に削除できないのか。

(兵頭 俊康 代議員)

(回答)

「予告・お知らせ」「報告」については、後からどのような告知が行われたかを確認するための記録となりますので、クレームなど特別の事情がない限り事後の削除は控えてください。例会予定は月が替わると自動的に削除されます。項目については、すべてのケースに対応するシステムの構築は予算的に困難な面もありますので、運用での工夫をお願いしています。また、使い方についての個別の質問は担当者 MLなどを活用願います。

## —広報関係—

### 【1-34】

ネット社会と云われて久しい中、鉄道友の会のHPの管理に尾骨折いただきありがとうございます。しかしながら、内容に下記疑問があります。

「インフォメーション」の欄に、賛助会員でもなく公共施設（主に博物館）の行事でもなく鉄道事業者でもない、ただ単なる出版社の本が案内されています。

この欄に掲載される基準についてご提示いただきたい。単なる出版社の宣伝に利用されるのは、当会の趣旨に反するし、特に会員外の方には当会が推薦していると誤解されてしまう。基準等があればご提示いただければ幸いです。 (井口 昌樹 代議員)

(回答)

現在、友の会WEBの「インフォメーション」欄には、賛助会員からのものも含めて事務局に情報提供があったものを掲載しています。現状では友の会から積極的に広く情報を集めることは難しいこともあり、当面このような情報提供を行いつつ、会員の皆様のご意見も伺っていきたいと考えております。

## 【第2号議案についての質問】

### 【2-1】

決算報告について

支出の部会報費「会報制作費」の内訳について開示願いたい。(収入にしめる割合が高すぎると感じるためです) 例) 取材費・原稿料・編集費等が考えられますが・・・

(濱道 輝章 代議員)

(回答)

会報制作費のうち、原稿料が710,700円で残りは編集費です。

### 【2-2】

会費外収入のうち会報委託というのはRFの書店売上(から販売手数料を差し引いた)分でしょうか。この項目を開示するようになった2010年度以降、初めて1百万円を超え、一定の評価を得ていることが窺えます。誌面を割いてでも入会案内を掲載することが会員獲得のチャンスの一つにつながるのではないのでしょうか。

(坂戸 宏太 代議員)

(回答)

会費外収入のうち会報委託は、「RAILFAN」の書店での売上額(実収入)です。この売

上は、販売を書店に委託している関係で、入金タイミングが一定ではありません。2016年度は、過年度分の入金もあり一時的に増大しています。ただし直近2年度の数値の平均は、それ以前より多いことは事実で、主に臨時増刊号が寄与しています。会員獲得の方策については、ご意見として承りました。

### 【2-3】

2016年度収支決算報告

支出の超過幅は2015年度と比較して抑えられており、財務について喫緊の問題はないものと判断しております。ただ、経常収支比率、流動比率、当座比率が理想値を下回っており、当面は従前通り冗費の抑制の継続、長期的には会員数の増加につながる事業の展開が求められると考えております。本部のご見解を伺います。(平野 正範 代議員)

(回答)

会費外収入の増加策や支出削減についての検討が必要な状況であると考えます。

## 2. 2017年度運営計画・収支予算案に関する質問・意見

2017年度計画については、今総会での承認を得た後、実施段階に移行します。  
下記の項目につきましては、代議員の貴重な意見として、実施計画立案時の参考にさせていただきます。

### 【第3号議案（運営計画）についての質問・意見】

#### (1) 社会的認知度の向上

##### 【3-1】

鉄道友の会のこれまでの伝統を守られるのか？それとも、改革を図られるのか？どちらの方向性でしょうか？  
(松嶋 克廣 代議員)

(回答・意見)

ご意見の具体的な内容がよくつかめませんが、当会は60年余の歴史を積み重ねてきており、その事実が対外的な評価のひとつになっています。いっぽう、時代の流れ（変化）は急速に進んでおり、その対応が必要なことも確かです。玉虫色の表現とはなりませんが、「歴史に裏付けされた伝統を守りながら、必要な改革を進めてゆく」ということになるでしょう。そのためにもお願いしたいのは、必要な改革の具体案及びその方策等をご提案いただけると幸いです。

##### 【3-2】

昨年度のBL賞についての意見・質問が相次ぎ、総会席上にて丁寧に説明頂き、RF誌上でも丁寧に周知頂き感謝しております。しかしながら、改造車のノミネート基準が曖昧のように見受けられます。改造車についても明確な基準・線引きが必要ではないでしょうか。  
(原 英喜 代議員)

(回答・意見)

4月発行の機関誌「RAILFAN」の「候補車両の選定経緯」で記載の通り、改造車及び増備車の仕様変更の度合いについても、新造車と同様に内規第2条の基準に基づき10項目を採点・評価しています。

##### 【3-3】

JR東日本の「四季島」やJR西日本の「トワイライトエクスプレス瑞風」といった富裕層向けクルーズトレインの、ブルーリボン賞やローレル賞へのノミネートについて、本部サイトではどのように考えているかお聞かせ願いたい。  
(日下 博文 代議員)



(回答・意見)

2018年ブルーリボン賞・ローレル賞の「候補車両の選定」作業は2018年の選考委員会に委ねられます。ご意見の本部サイドがどこを差しているのか分かりませんが、輸送に供する車両であるかが委員会では議論されると考えています。

豪華車両の扱いの原則については、「RAILFAN」752号の4ページ「鉄道友の会の車両顕彰は、「趣味的活動」ではなく「社会的活動」の第1項目の「賞の目的はわが国の鉄道車両の進歩発展に寄与」に解説してあるとおりです。

### 【3-4】

ブルーリボン賞・ローレル賞の投票率が昨年度より若干改善されたことは評価するが、投票期間が短いという声もあるので、もう少し余裕があってもよいのではないか。

また、贈賞結果は、記者クラブに対して発表されているが、実際にメディアでどの程度報道されたか。友の会やブルーリボン賞・ローレル賞に対する社会的な関心・評価の目安となる。

(藤岡 博信 代議員)

(回答・意見)

投票期間については、これまでも検討してきましたが、プレス発表の時期をこれ以上遅くすることはできず、関係者は5月の連休中にも作業を続けている状況もご理解ください。また、プレス発表後のメディアでの取り上げ方、関係会社などからの発表には、理事会でも大きな関心を持っております。今年の場合は、交通新聞では例年にない早さで(プレス発表の翌々日に)大きく掲載されました。その他に、日経新聞の九州経済面、中日新聞、新潟日報、インターネットの乗り物ニュースなどにも掲載されました。関係会社などからのプレス発表としては、JR九州、静岡鉄道、えちごトキめき鉄道、日本鉄道車輛工業会、総合車両製作所などから発表がありました。

### 【3-5】

昨年度の継続での質問となりますが、フォトコンテストで鉄道友の会の関係者が選定に関わらない作品を鉄道友の会賞として表彰するのは如何なものかと思っております。作品によっては、当会のイメージが歪められる懸念もあります。本件は、過去にも同様の質問(2008年度、焼田代議員)がありました。また、副賞の会員資格も、過去数年間で会員を継続した人が居ないのであれば、見直しを行っては如何でしょうか。

(平石 大貴 代議員)

(回答・意見)

本件については過去何度か主催者をお願いしていますが実現できていません。今後の検討課題としたいと思います。

## (2) 会則が定める目的を実現するための方策

### 【3-6】

機関誌「RAILFAN」と鉄道友の会ウェブサイトの連携について

現在、支部の事務局とウェブ担当を兼務しているが、支部活動特に行事報告の鉄道友の会ウェブサイトへの投稿から、機関誌「RAILFAN」掲載までの工程表を示して下さい。

例えば、6月に支部行事で鉄道施設見学会をおこなったとして、終了後に即ウェブサイトへ投稿するとRAILFANに掲載されるのは、8月発行？それとも10月発行の誌面ですか？

ウェブサイトからRAILFAN原稿の作成の月日は、上記事例で何時になりますか？この日程が不明ですと、終了した活動報告を何時までもウェブサイトに登載しておくことになります。

(沢野 慎一 代議員)

(回答・意見)

ウェブサイトは「RAILFAN」投稿用の通信手段ではなく、独立した媒体として機能しています。「RAILFAN」だけに記事を掲載したい場合は、ウェブサイトに投稿をせず、直接RAILFAN宛に記事を送付してください。ウェブサイトに投稿された後の「RAILFAN」掲載は、早ければ次発行号に掲載可能ですが、誌面の制約や記事内容の平準化、また予告・お知らせが急遽入る場合などもあり、掲載時期を明確にはできません。投稿後、数カ月以内とお考えください。

### 【3-7】

支部活動への費用助成について

昨年来鉄道友の会会員の増加活動について、支部の行う活動については、本部より費用の面で、支援を行うと聞いているがいまだ何の取組みもなされていないようである。

そこで以下の点について質問します。

- 1 支部支援の具体的な内容について2016年度の理事会で協議されたのか？  
されたとすれば何時頃支部に示されるのか。支部によっては、支部総会が終了した支部もあります(新潟支部は5月14日に支部総会が終了しました)
- 2 上記「1」については、第4号議案 2017年度予算案に「支部支援」として項目(金額)が計上されていない。今回提案の予算案のどこの費目にどのくらいの金額が、計上されているのでしょうか？計上されていない場合は、支部支援の内容が決定し次第、予算の組み替えを行うのでしょうか？

何れにしてもこのままだと、決定までに半年過ぎてしまい支部は何の取組みもできないが・・・早急に協議をして下さい。

(沢野 慎一 代議員)

### 【3-8】

「会活動活性化のための各組織間の連携強化」の具現化のための方策は何か？

2016 年運営計画「支部要請に基づく支部行事への支援」は、具体的な方策が示されることなく、2016 年度運営報告にも何も触れられていない。

2016 年定時総会の須田会長の挨拶「支部活動支援を予算的にも支援したい。」や  
関専務理事の答弁「知恵を絞ってやりたい。」はどのような経過を辿ったのか？

会員増強は、現在の日本人の気風の一言で断念するのか？

会員増強の最前線の支部への支援策の構築に期待する！

会員増強一環として、新潟支部では、信越本線直江津関山間開業 130 周年記念の記念講演会を企画し、事務局に支援を求めたが、具体的な提示がなく断念した。

今年度は、信越本線直江津新潟間の前身の北越鉄道開業 120 周年記念講演会を 11 月 11 日開催に向けて準備している。

会員増強策 2 年目の運営計画に期待していたが、今年も断念することになるのか。既に、講師及び会場は内諾を得て、予約済みである。

(中村 稔 代議員)

(回答・意見)

支部企画行事の推進を踏まえ、2016 年総会議案書 2016 年度運営計画案 (2) エ) に、「支部の要請に基づく支部行事への支援」を提示しました。現行規定に「支部助成金の制度」がありますので、企画行事内容、予想される効果及び概算予算を記載した申請書を理事会宛へ送付してください。受理後、審議致します。

なお、予算案には計上しておりません。支部支援内容が決定すれば当該金額を支出しますが、予算の組み替えは行わないで対応します。

### 【3-9】

『RAIL FAN』誌で増刊号だけ内容充実する狙いは何でしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答・意見)

通常号の内容充実を無視しているのではありません。運営計画案では第 2 項全般に対して「更なる充実をはかる機会を会員に提供する」と記してあります。増刊号は特定のテーマに絞った編集内容のため、評価と収入の両面で運営に寄与しています。会則が定める目的を一層推進するため“更なる内容充実”と記しました。

### 【3-10】

RAILFAN の内容や対象とする読者に偏りがあるという意見がある。研究性や資料性の高い内容を否定するわけではないが、もう少し会員の「顔」や「活動」が見える内容を期待する。研究成果や史料を紹介する号と、本部や支部・研究会の活動を紹介する号を分けて発行するもの一案ではないか。本支部・研究会の活動紹介は、簡易印刷スタイ

ルでもよいと思う。

(藤岡 博信 代議員)

(回答・意見)

「RAILFAN」については、2016 年度第 4・5 回理事会で、その役割や位置付け、また内容やコスト等、多方面から検討を加え審議しました。当面は現行形態を踏襲しながら一層の誌面充実を図ることとなりましたが、ご提案とは異なる内容の分離案もありました。ご意見については了解しました。また、ご提案の内容は今後の「RAILFAN」のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。

### 【3-11】

「RAILFAN」会員から投稿記事が数多く寄せられていると思うが、本部編集担当に寄せられた記事の件数また投稿に対して採否の件数並びに採否について伺いたい。

(山岸 房雄 代議員)

(回答・意見)

2016 年度の記事投稿件数は約 60 件（写真だけの投稿や JRC だよりは含まず）、採用件数は約 50 件です。採否件数については、過年度の保留分や次年度への繰り越しなどもあり単年度の明確な数字は出せませんが、近年は大体上記の数字で推移しています。採否については、可能な限り掲載する方針ですが、紙媒体の特性上、誌面に限りがあるので、現在は記録性・資料性を主体に、趣味性や有用性などを加味して決定しています。学会のような審査基準等は設けていませんが、個人会員だけでなく賛助会員にも配られ、関連業界の方も目に触れる存在なので、掲載記事については一定の品位や品質を保つ必要があると考えています。

### 【3-12】

支部会員が本部へ投稿したが、本部担当側からは何の音沙汰もないまま不採用となってしまう。本部編集担当には数多くの投稿記事が送られてくると思うが、せめて記事を受け取った旨の連絡があってもいいのではないかと。

(山岸 房雄 代議員)

(回答・意見)

投稿がどのような内容（ニュース、一般記事等）か不明ですが、ニュース等については総合的に判断して原稿受領の連絡は不要と考えています。一般記事については、以前に比べて大作や連載が多いため、投稿から掲載までに時間が掛かるケースが多くなっていますので、原稿受領の連絡を検討してみたいと思います。なお、投稿が不採用と記されていますが、一般記事の場合、投稿から掲載までに 1 年以上要する場合があります。掲載予定稿の可能性もありますので、差し支えなければ具体的な投稿内容をお知らせください。

### 【3-13】

各組織間の連携強化とありますが、この組織とは何を指しているのでしょうか？

(松嶋 克廣 代議員)

(回答・意見)

当会を構成する、本部、支部及び研究会を含めて組織と表現しました。本部と支部、本部と研究会、支部と支部等が、それぞれが連携して相互理解をすすめることで会活動の活性化を期待したものです。

### 【3-14】

鉄道知識の普及も大切だが、組織である以上、「会員相互の親睦を図る」ことも「会則が定める目的を実現するための重要な方策」ではないでしょうか。そのための具体的な方策もビジョンとして掲げ、活動を推進する必要があるのではないのでしょうか。

(原 英喜 代議員)

(回答・意見)

鉄道趣味は個人の考え方もあって多様です。会の活動(事業)において、「鉄道知識の普及」と「会員相互の親睦を図る」という要素は共に重要な方策と考えます。このうち、「会員相互の親睦を図る」という活動推進に関して具体的なご提案をいただけるとありがたいです。

## (3) 活動基盤強化

### 【3-15】

行事案内の現状は①RF 掲載(隔月刊で全行事の告知不可)②葉書連絡(1000円の通信費を要し実質会費増)③WEBでの告知(WEB環境が必要)で何れにしても()内の問題点から全員に100%告知出来ていない。特に②③は会員中の割合が低いようで、①も昨年は一般行事18件中4件の掲載である。これでは会員目線に立った運営と言えず行事案内を得られない事を不満とする退会者も多いのでは。本部の見解と②③の会員に占める割合をお伺いしたい。

(篠原 丞 代議員)

(回答・意見)

事業者との最終合意を得られるのが開催直前になってしまうことも多くなってまいりました。以前にも回答しましたが、それで行事をなくすよりは、直前の募集でも開催する方向で考えております。その場合は、①では告知が厳しい状況です。基本的には③の告知方向が中心となります。なお、②に関しては、Web環境が整っていない方のためのものです。

会員に占める割合は、②約8%、③は約10%です。

### 【3-16】

過日本部行事で、阪神支部所属会員で無断キャンセルをし大変ご迷惑をかけた会員がいた。本人は責任を感じ自発的に本部に申し出て退会したと聞く。ミスはミスとして注意するのは当然ながら何とか慰留出来なかったのでしょうか。一人でも会員を増やしたい折にこのような形で退会者を出したのは残念です。退会申し入れがあった場合、出来るだけ慰留にご努力頂くとともに所属支部へもご連絡頂きます様お願いいたします。

(篠原 丞 代議員)

(回答・意見)

今回は本人たつての希望でしたので、残念ですがその意向に沿いました。

もちろん退会者を減らす努力はしております。再入会していただけるよう魅力ある会作りをしてまいります。

### 【3-17】

積極的「会員の増加活動」と併せて、「退会減少対策」を強化することがそれ以上に重要ではないでしょうか。「社会的評価」「社会的位置付け」を重視するあまり、会員の意見やニーズを十分に酌み取った運営がなされていないように思います。退会者によって、会に対しての悪印象・悪感情を口コミや電子媒体を通じて社会に拡散されることが心配です。

(原 英喜 代議員)

(回答・意見)

「退会減少対策」を強化することも重要だと思います。そのための方策をご提案いただければ幸いです。

### 【3-18】

かけ声だけの「会員の増加活動」に終わらせないためには、対象年齢層を絞って実効ある作戦を立てる必要があると思います。若年層、60歳前後で方法は異なるはずです。

(真鍋 裕司 代議員)

(回答・意見)

会員の増加活動においては、年齢だけでなく、地域によっても手の打ち方が異なると考えています。施策は画一化できるものではなく、年齢・地域を絞って実効性のあるものにして行きたいと思います。

### 【3-19】

長野支部の会員については、正会員会費の納入状況を本部事務局に必ず確認している。現行制度では、支部・研究会費のみを納入して活動に参加することは認められていないが、他支部・研究会では、正会員会費納入状況の確認が徹底されているか。

また、正会員会費納入状況を本部事務局に確認するのは双方に負担となるので、会費



の納入方法は、RAILFAN 添付の払込取扱票による一括納入に一本化してほしい。

(藤岡 博信 代議員)

(回答・意見)

お手数ですが、行事、会合等の節、本人の会員証の確認をお願いします。

払込取扱票による年会費と支部費の一括納入は、会員としては利用価値が高いとは思いますが、その利用は、3月末(前年度末)までとご指導をお願いします。

### 【3-20】

活動基盤強化について

鉄道友の会のウェブサイトでパスワード等の変更により会員の閲覧が楽になりましたが、変更前後で閲覧回数が向上したかお聞かせ下さい。又、近年の新入会員の応募がどのような方法で入会されているか提示頂き、たとえばウェブサイトからの応募が多いのか、人的交流により入会された方が多いのか等を分析すれば、対策も取れるのではないでしょう。一方、退会者をいかに減らすかも会員減の重要な対策と考えます。

(坪倉 則孝 代議員)

(回答・意見)

会員サイトののべ閲覧数は1日当たり50~100程度です。2017年3月初旬~6月中旬での動きを見てみましたが、4/10(パスワード変更日)が121と最高で、残念ながら前後で有意な変動は見られませんでした。

2016年度新入会員は164名でした。この内、ウェブサイト経由の入会会員は103名です。残り61名は、再入会(人的交流効果が充分考えられます)、入会案内の配布効果が、半々位とみて、会員各位の幅広い支援を期待しております。

### 【3-21】

会員数がついに3000名を割ってしまった中で、会員数減に対する危機感が認められない。(3)ア)に積極的「会員の増加活動」とあるものの具体性にかける。なぜ、一般会員へのアンケート等により会員ニーズを知ろうという試みが出来ないのか

(北野 隆雄 代議員)

(回答・意見)

アンケートについては、退会者に関して実施しました。全会員に対しては検討したいと思えます。

会員数減に対する危機感が認められないのご認識ですが、理事会では必死に考えています。(ただ効果が見えないのが現実ですが…) 以前総会で申したことがあります。会員各位が、もし新会員1名を入会させれば、その人数分の増となります。そのような活動を会員各位にぜひ広げていきたいと思っています。



### 【3-22】

会員数がついに3000名を割ってしまった中で、以前に専務理事が会員はこうあるべきという趣旨の回答をされたが、理想より現実を優先すべきと思うが、いかがか

(北野 隆雄 代議員)

(回答・意見)

理想より現実との表現という概念的表現なので回答に困難していますが、前項との関連で考え、「会員それぞれが会員増にがんばっていただきたい」ということが理想とすれば、現実を優先すべきという「現実」が何を意味するのかよく分かりません。会費値下げなのでしょう。それが解らないと回答が非常に困難です。

### 【3-23】

「社会が当会に求めるニーズに合わせる」ということをやっていると、友の会の存在感はますます薄れるだけだと思います。鉄道趣味に対する多様な考え方の中で、明確な方針を打ち出してこそ存在感が高まると思います。鉄道友の会とは「鉄道を的確に記録して後世に伝える」ことを目的とする団体ではいけませんか？

(真鍋 裕司 代議員)

(回答・意見)

「鉄道を的確に記録して後世に伝える」ことが重要であることに異論はありません。現に当会の機関誌である「RAILFAN」は、そのような編集方針をとっています。会活動の目的を「鉄道を的確に記録して後世に伝える」に絞ることに 대해서는ご意見として承りますが、現状は、両者をバランスさせていくことが現実的であろうと思います。

## 【第4号議案（収支予算案）についての質問・意見】

### 【4-1】

支出の部 会報費を減額しているが、通常通りの発行及び発送が継続できるのでしょうか。特に発送費は運賃値上げが相次いでいる現況で、少なくとも前年並みを維持する必要があります。

(平野 正範 代議員)

(回答・意見)

2016年度の決算を根拠に、通常通りの発行及び発送が継続可能となるよう予算を策定しております。発送費については、2016年度決算額の約2割増しで予算を策定しております。

## 【第5号議案（役員選考会を構成する代議員選出の件）質問・意見】

（なし）

### 【特別事項】

#### 会則の一部改正について

会則第4条第1号及び同条第3号の改正を求めます。

- ・要求理由 学校教育法の改正に伴い、義務教育課程が従前の「小学校・中学校」から、「小学校・中学校、及び9年制の義務教育学校」に変更になったこと。

既に2016年4月1日から施行されています。実務上義務教育学校の設置が本格化するまでには、若干の猶予があると考えられますが、社会の実情に合わせるうえで、早期の改正が必要と考えます。

- ・改正案 第1号「中学生以上」を「義務教育課程7年目以上の年齢」、第3号「中学生以上の年齢」を「義務教育課程7年目以上の年齢」にそれぞれ改める。

※「義務教育〔学校〕」ではなく、従前からの中学を含めた「義務教育〔課程〕」とする点にご留意願います。  
(平野 正範 代議員)

（回答・意見）

有意義な情報有難うございます。検討課題としたいと思います。

以上